認定心理士の会から

研鑽の機会の提供という役割

普段は大学教員として，心理学を専攻とする学生の教育をおこなっています。カリキュラムが領域特化したものではないこともあり，学生は必ずしも心理学に関する仕事に就職していくわけではありません。むしろ，心理学と直接的には関係のない仕事に就くケースの方が多いといえます。

そのような点では，卒業生が大学で学んだ知識や経験を社会でどのように活用しているのかは見えにくいところもあります。もちろん，卒業後も何かの折にやりとりする卒業生であれば，ある程度の状況はわかりますが，そうでない卒業生は，いったいどのようなことをやっているかわかりにくいです。そして，心理学に対してどのように向き合っているのか，向き合うことがあるのかもわかりにくかったりします。

さて，今期に新しく認定心理士の会の運営委員として加わり，さっそく関東支部会の企画においてご挨拶のようなものをさせていただきました。すると，企画の後の参加者の感想の中に，私の授業を受けた卒業生であること，私の姿を見て驚いたということ等が書かれているのを見つけました。

卒業生の方も驚いたのでしょうが，私の方も驚きました。まさかこんなところで再会（?）するとは思っていなかったからです。その卒業生が心理学を生かした仕事に就いているのか否かはわかりませんが，少なくとも心理学に対して今でも興味を持ち，そして学習する意欲があり，そして実際に行動に移している（企画に参加している）ということに，驚きとうれしさを感じました。

学ぶことは，いつでもとは言いがたいですが，状況を作り出すことができれば，おこなうことが可能です。そのきっかけとして認定心理心の会の企画が役に立てばと思います。

（認定心理士の会運営委員会委員　鈴木公啓）

若手の会から

若い人が気軽に発表できる場を

本年度も，日本心理学会第86回大会にて「学部生・高校生プレゼンバトル」が開催されました。本企画は，学部生や高校生が自身の研究やアイデアを発表できる場として，若手の会主催で毎年行われています。若手の会新幹事として，初めてプレゼンバトルの審査に携わりましたが，率直な感想として，その完成度の高さとアイデアのおもしろさに圧倒されました（「うんこ」をテーマにした発表は笑いましたし，そのアイデアと研究デザインにも驚きました）。卒論の構想やアイデアを発表するだけでなく，すでに調査や実験を行っていて，その結果の発表と考察も行っている発表者が多い印象でした（もちろん，適切な統計的解析も!）。

私が高校生・学部生の頃はどうだったかなと考えると，アイデアも微妙でしたし，発表もダメ出しを食らいまくってダメダメだった記憶があります（笑）。そう考えると，最近の高校生・学部生は心理学に対する興味・知識と，研究能力が圧倒的に向上している印象でした。

若手の会では，今後も高校生や学部生が研究発表をできる場を企画し，若い皆さんが心理学により興味を持ってもらえるよう，そして研究レベルの向上へ少しでも貢献ができればと考えています。次年度も日本心理学会大会にて「学部生・高校生プレゼンバトル」を開催する予定です。学部4年生の方は，これまでに行った卒業研究や，大学院に向けた研究アイデアの発表を，学部2・3年生の方は卒業研究の構想やアイデアについて発表を行っていただければと思います。高校生や学部1年生の方でも，はじめの一歩として，授業等で調べたことでも大丈夫ですので，気軽に研究発表を行っていただければと思います。そのために若手の会では企画準備を進めていきますので，どうぞよろしくお願いいたします。

（若手の会幹事　工藤大介）